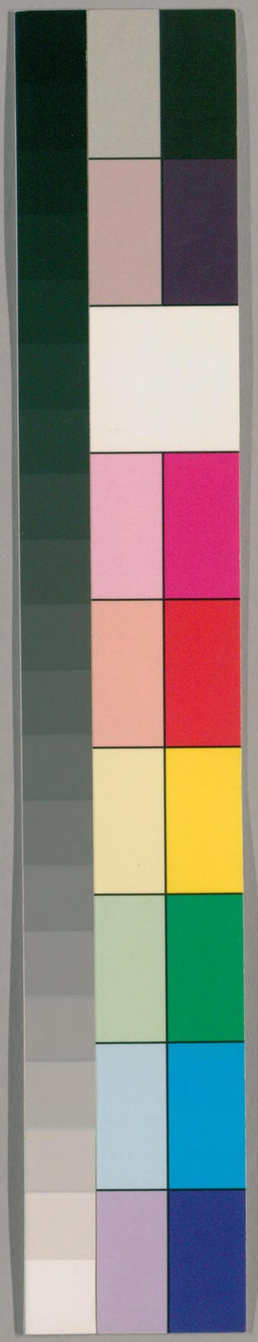
三省堂雜録

859
82



国立国会図書館　タイトル『三省堂雜録』 請求記号 859-82

ガラス使用

859-82

青谿書屋

帝國圖書館藏

○國分寺の古瓦

常州新治郡府中驛の東二町許に土俗虹ヶ原（虹ハ尼寺の語りえ）と呼べる所あり是今の國分寺の苗趾なり大堂迴廊鐘楼食堂山門等の跡有て其礎石方二町許ゟ間に分在し其大なるもの八九尺或ハ一丈餘に及ぶものあり実に古代の盛大なるを想像へし近比此地の一農夫其邊を耘りて當時の古瓦を得たり今府中の郡司氏なるもの是を藏せり面に菊紋あり亘り九寸五分長サ一尺四寸厚サ二寸三分表裏皆布文あり其質尤堅硬之相傳ふ當寺ハ

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82　ガラス使用

聖武帝天平十一年己卯（或八十二年九）諸國に國分寺を置ける時の一員にして今慶應丙寅にいたりて焉兎一千百二十七年を經たり

○正宗寺古錢

正德二年常州久慈郡增井村正宗寺佛殿修造の時床下を鑿穿て古錢多く出せり往僧是を本府に獻ぜ其目左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開元通宝 | 十九貫六百文 | 唐國通宝 | 二百文 |
| 乾元通宝 | 八貫八百文 | 皇宗通宝 | 三十一貫八百文 |
| 聖宗通宝 | 八貫八百文 | 宗元通宝 | 八百文 |
| 太平通宝 | 一貫八百文 | 淳化元宝 | 一貫百文 |
| 至道元宝 | 三貫九百文 | 咸平元宝 | 四貫四百文 |

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82
ガラス使用

景德元宝　五貫三百文
天禧通宝　五貫二百文
明道元宝　九百文
至和元宝　三貫六百文
治平通宝　五貫六百文
元豊通宝　二十九貫文
紹聖元宝　十貫七百文
元符通宝　三貫百文
宣和通宝　六百文
慶元通宝　五百文
開禧通宝　一百文

祥符通宝　十貫文
天聖元宝　十一貫二百文
景祐元宝　二貫百文
嘉祐元宝　四貫七百文
熙寧元宝　二十三貫文
元祐通宝　十一貫九百文
大觀通宝　二貫七百文
政和通宝　九貫三百文
淳熙通宝　三百文
嘉泰通宝　三百文
嘉定通宝　五百文

紹定通宝　三百文
景定通宝　二百文
元祐通宝　十貫文
嘉祐通宝　二貫五百文
太宋通宝　二十文
紹興通宝　十文
嘉熙通宝　五十文
至大通宝　五文
東國通宝
冨壽神宝
漢元通宝

淳祐通宝　二百文
咸淳通宝　一百文
景祐通宝　一貫四百文
正隆通宝　二百文
建炎通宝　二十五文
端平通宝　六文
開慶通宝　五文

海東通宝
周元通宝
神功開宝

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82
ガラス使用

咸康通宝　　唐國通宝
朝鮮通宝　　崇寧通宝
大定通宝
文字不分明錢二貫六百文
右六十品総計二百三十四貫八百三十三文　　正宗寺

○關帝廟の印

水戸壽昌山祇園寺に心越禪師明朝より携へ来る処の金印一箇を藏し方六分許印面四字を鐫し中一字は蒙古文なり好古日録に云く此金印は僧心越の携来る処のものといふ今水戸の一禪刹に納む印文四字にして三字は蒙古字今一字は花押ならん疑ふらくは胡元の時鑄る処の關帝廟の印なるべしこゝ東國旅行誌に云く禪師は唐土漢壽亭侯の苗裔なるによつて関羽の金印なるゝは玄德の鏡背當寺に有ここ又燕石雜誌にも此印の事を載せり

○松蔭の硯

松蔭硯は洛東百万遍智恩寺の什物なり相傳ふ唐山趙州の人宋三より大相國清盛公へ繕る処なりといふ其後三位重衡卿是を傳ふ然に彼御源氏に因しありて死刑に処せらるゝ折僧法然を請じて導師とし故に布施として是を贈り當寺に法さへたりしか應仁の乱に紛失し其後永正の頃にもや江刕篠原の正淋と

いひし人當寺廿又世傳巻へ寄附はしなれん

紫石

厚一寸三分

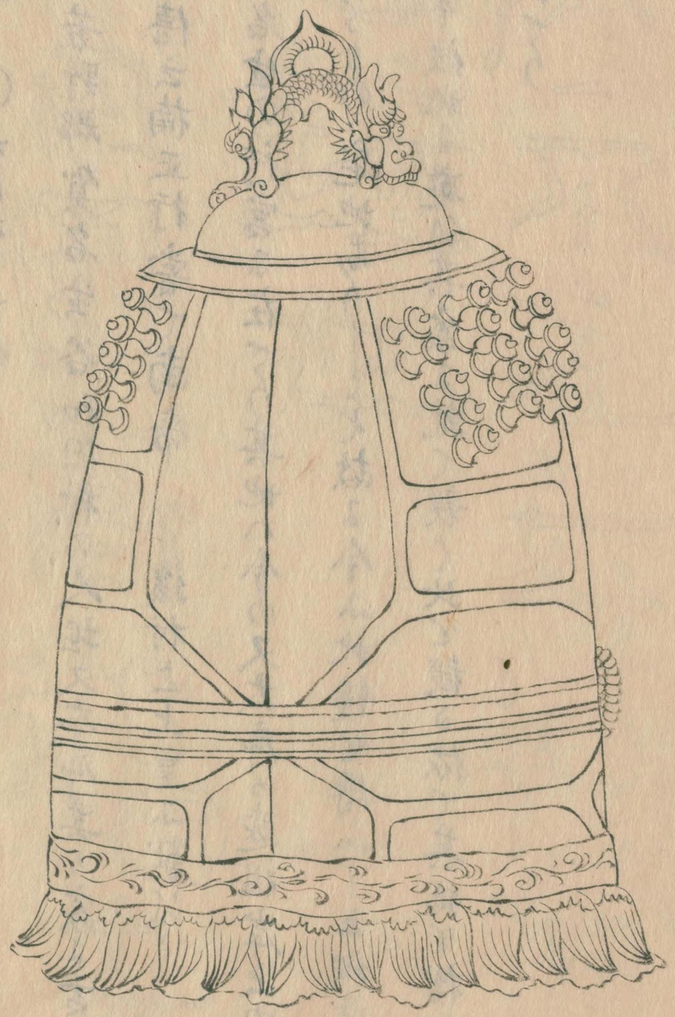
月形ハ海ニ雲形ハ剛上ヶ
篆字ハ彫入リあり

○古断墨

京都東寺に藏する処の古断墨一挺弘法大師入唐のをり彼土より将来る処なりといふ形状大サ圖の如し

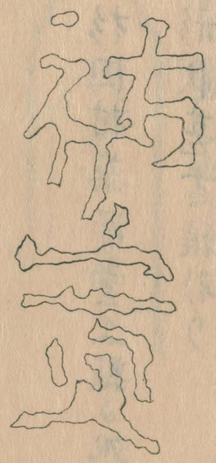
○杉田薬師の古鐘

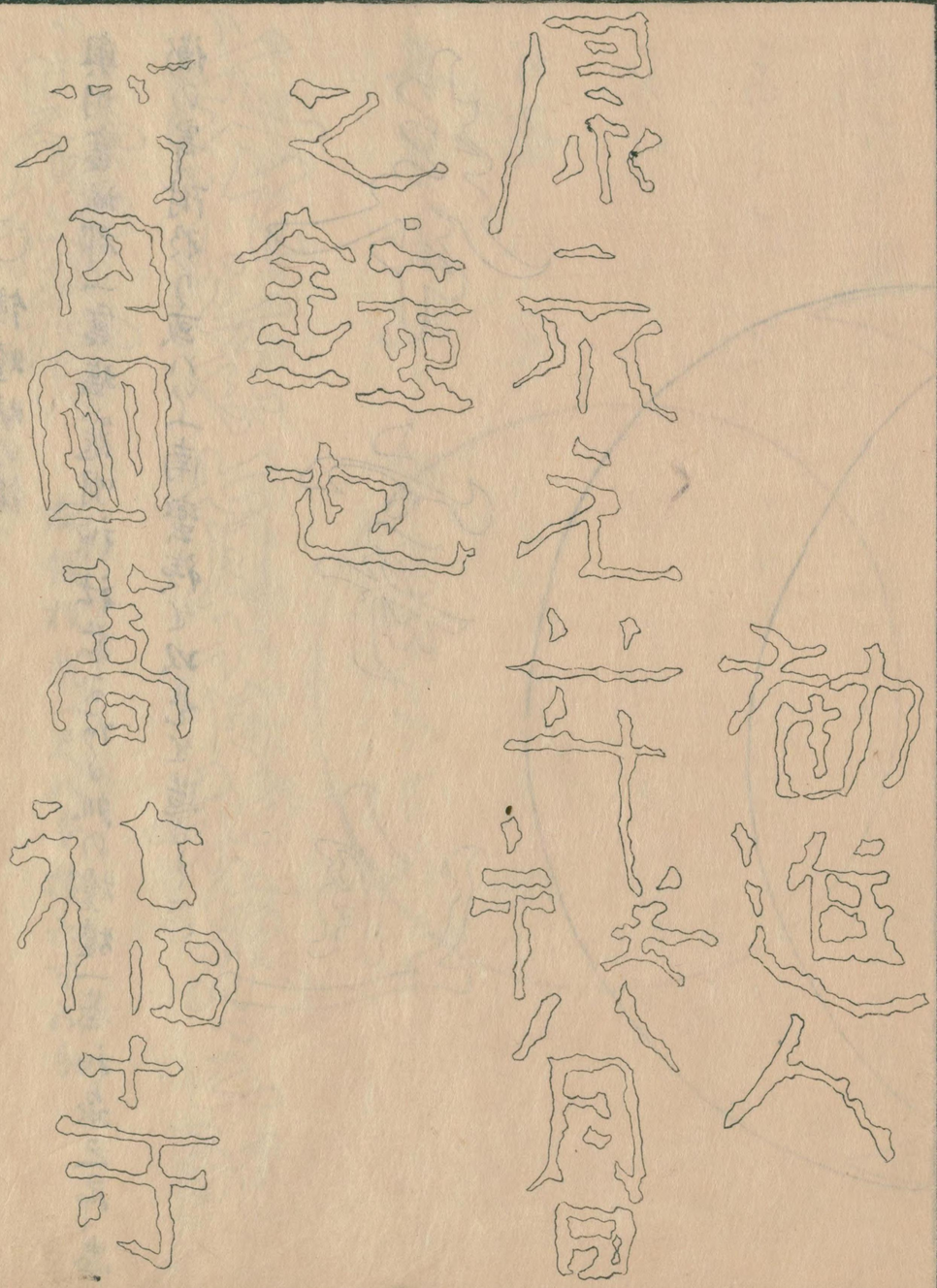
陸奥國安達郡二本松の此方杉田村薬師堂に縣る処の鯨鐘一口延寶年間土中より堀出はしと云形状甚古雅なり



○和田村の古鐘

大和國芳野郡賀名生谷和田村の人堀又太郎某ゟ家に古鐘一口を藏し傳云楠正行嘗て南帝　後村上上皇に獻じ　上皇時に賀名生の行宮に在せり其地ハ今の又太郎ゟ遠祖岸上内藏頭信通ゟるものゝ宅地ありしとそ故に今に此鐘を傳ふと云我藩立原伯時一年彼地に遊び其家に就て親く此を觀る依て其銘を摺写して家に藏せり

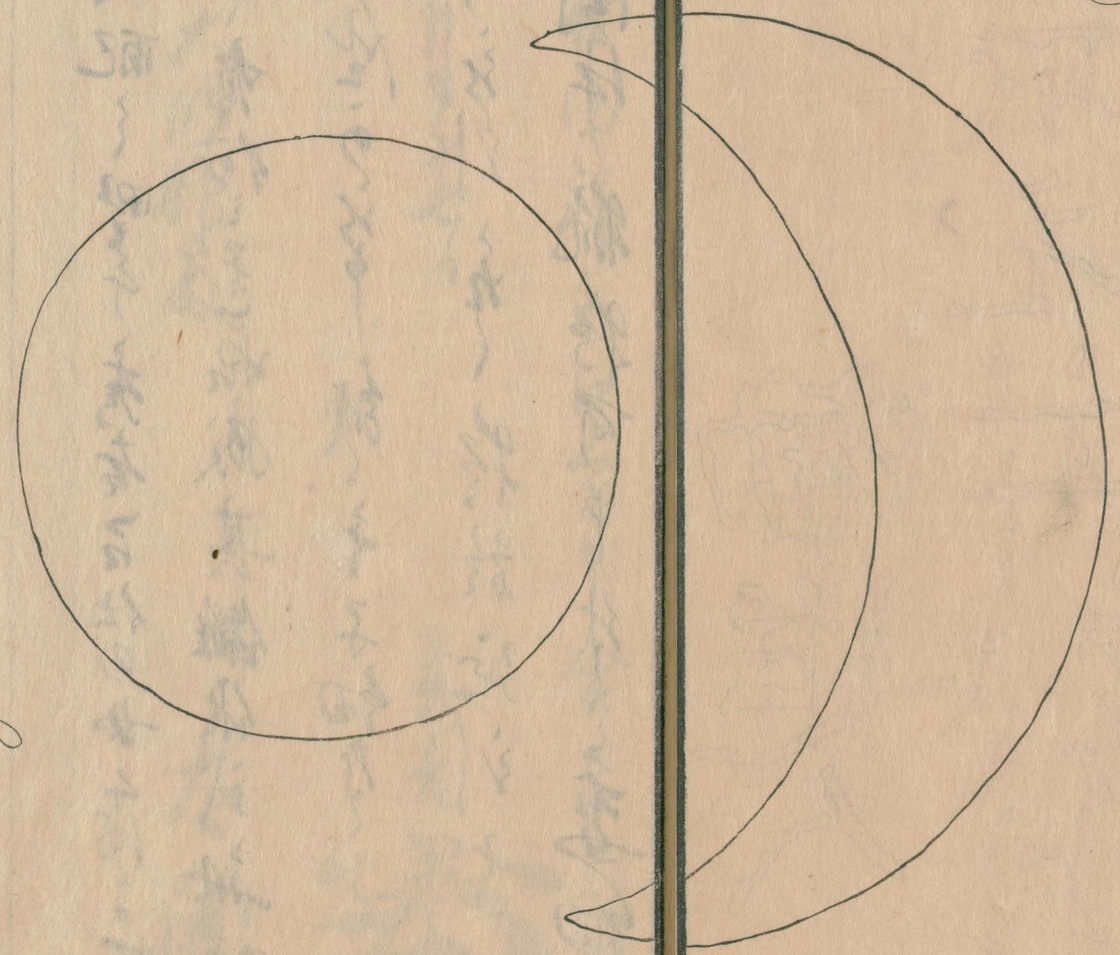




○銭燈炉の銘

奥州宮城郡一宮塩竈明神社前にある処の燈爐一基和泉三郎忠衡の寄附なり或ハいふ南蠻銭を以是を造るとこゝ

奉寄進



文治三年七月十日和泉三郎

忠衡答

右銅板長一尺八分横六寸五分

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82　ガラス使用

○秀吉公親書

豊臣秀吉公の真蹟一枚南都東大寺龍松院に有秀吉公聚楽亭に御座ありし時召仕の侍女野狐の為に取付れ大に狂ひ悩む秀吉公甚怨りあひ東山稲荷口使を送ハされ譴責せらる依て其悩頓に止む

其歩支配ニ堅ケ秀吉召仕の女ニ為に取付為悩有何ニ差恨成其儀雖然此儀ニ於度 歴の御中 鍼ニ手子細なくして不ニ可ニ御引ニ者ニ猶旅延引ニ者日本國中狐狗可中付ニ委細ニ儀志吉田神主口上ニ申含ニ候ふ定

三月十七日

秀吉

稲荷大明神殿

右閣

## ○安寺村盲帳

常州久慈郡の北高倉村の中に安寺持方と呼べる地あり本郷を距る事各一里許深山の中にあり其岐嶮岨にして馬足通し難し岫を攀谷を渉りて漸く通ひつへし四方高山にして凹ある地に九家あり是を持方と云夫より東半里許にして八家あり是を安寺といふ其人淳朴にして文字を志らん藤布を織て衣とし野草を採て食とし公納ハ先くら帳と云をもつて知らしむるに一銭を滞るまゝ然し近頃本府の郡宰是を憐ミ両村の中二人を撰て高倉村に遣し文字を学ハしむ故に今ハいろは假名を書事を覚へたり此地何の年の開く事を志らん寛永中既に此称あり古昔山方小生瀬の両村より開起しとも云持方九家の中八家ハ神永氏一家ハ須加川氏あり安寺ハ八家の中七家ハ増子氏にして一家ハ横山氏之凡四海の内高山深谷の際斯の如くの比ひ又多かるへし近頃浪華の人刊行する処の奥劦南部の入郷山田村にて用る暦の図有彼盲帳と同日の譜なり

盲帳（めくらてう）

| | |
|---|---|
| 三 | 茂六来 |
| 三 | 梧六 |
| 十 | 與助 |
| 十 | 十蔵 |
| 三 | 元助 |
| 十二 | 元十 |
| 三 | 三郎来 |
| 三 | 儀八 |

| | |
|---|---|
| 十 | 傳次郎 |
| 十 | 四郎平 |
| 十二 | 甚之助 |
| 三 | 持方分 |
| 十 | 安寺分 |
| 一歩 | 弐朱 |
| 十 | 一貫 百 |
| 十 | 一文 |

○國造碑

國造の碑は下野國那須郡湯津上村にあり 官道大田原の東三里許にして黒羽分南半里を隔つ

相傳ふ　天武帝第一の皇子草壁皇子の陵なりと

天皇既に大友皇子に打勝ゐひて伊勢國より大和國に入りゐひ

岡本に内裏を造り飛鳥淨御原の大宮と號し奉る朱鳥元年

九月崩御海しまし御后御即位ありて持統天皇と申する同

年皇子又崩御しゐふ依て此地に陵を営む　文武四年庚子

意斯麿碑を建て是を表はしいふ其後歳月を積む事既に久ふ

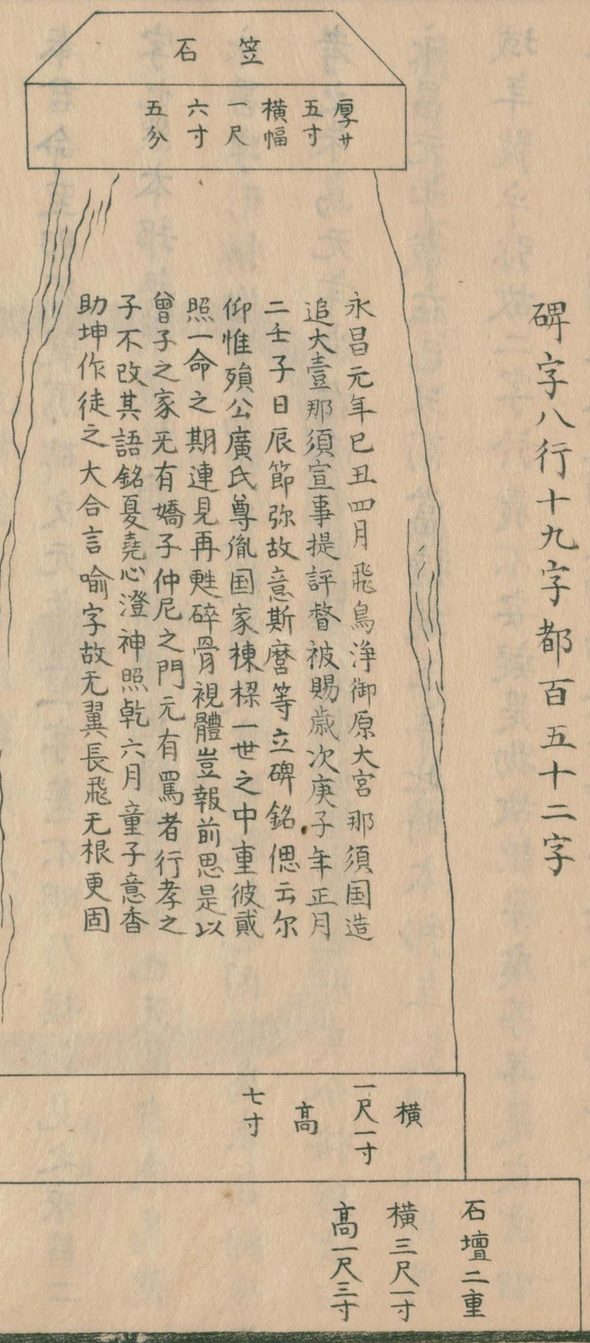
して碑碣又隨て慶頽し能是を識るものなし時に元録四年辛

未我水戸　西山源公是を閲召され儒臣佐々介三郎及と大金

某等に命せられ彼地に到て其修理を加へさせらる依て再と舊

觀に復れ更に又一小堂を造り碑碣を其中に安置し云

碑字八行十九字都百五十二字



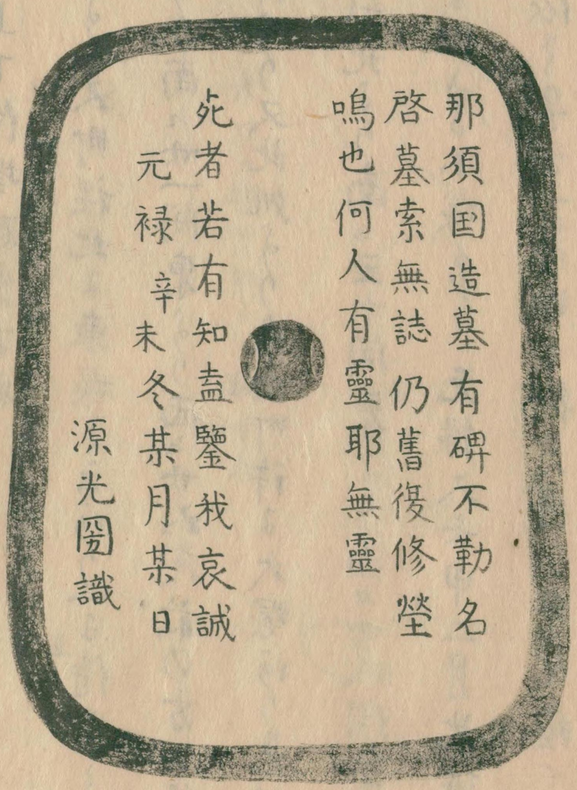

永昌元年己丑四月飛鳥淨御原大宮那須国造
追大壹那須宣事提評督被賜歳次庚子年正月
二壬子日辰節弥故意斯麿等立碑銘偲云尓
仰惟殞公廣氏尊胤国家棟梁一世之中重彼貳
照一命之期連見再甦碎骨視體豈報前思是以
曾子之家无有嬌子仲尼之門元有罵者行孝之
子不改其語銘夏堯心澄神照乾六月童子意香
助坤作徒之大合言喩字故无翼長飛无根更固

碑高四尺御影石

墳長八間横七間

右那須國造碑在下野那須郡湯津上里碑云永昌元年己丑四月飛鳥淨見原大宮那須國造追大壹那須宣事提評督被賜歳次庚子年正月二壬子日辰節彌故意斯麿等立碑貞享四年之秋余奉君命至那須親寫碑文元年上二字甚不明乃摸印見之永昌二字也然本邦無永昌號焉飛鳥淨見原天武朝也天武有朱鳥號永昌字形稱侶朱鳥想是歳月久字體訛缺也因推爲朱鳥歸後考之朱鳥元年歳在丙戌此日己丑則非朱鳥也明矣今按唐武后永昌元年歳在己丑而當持統三年此時本邦年號闕假用異域年號乎弥故二字於義不安疑是物故訛乎庚子年是文武四年也盖那須国造天武朝人物而歷仕持統文武者也凡上世碑碣今存于世者此碑與陸奥壷碑也壷碑爲好事者往々摸寫此碑在荒墳茂草之間無人識之者自非我君侯好古之深安得傳之世乎死者若有知那須国造忻々然於地下焉

水戸府儒臣佐佐宗淳謹識



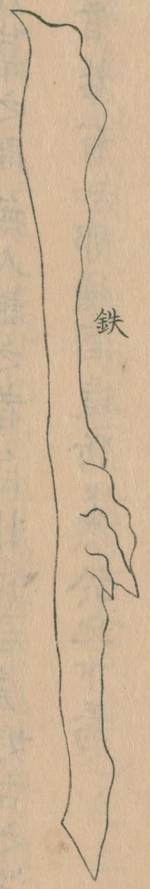

徑五寸

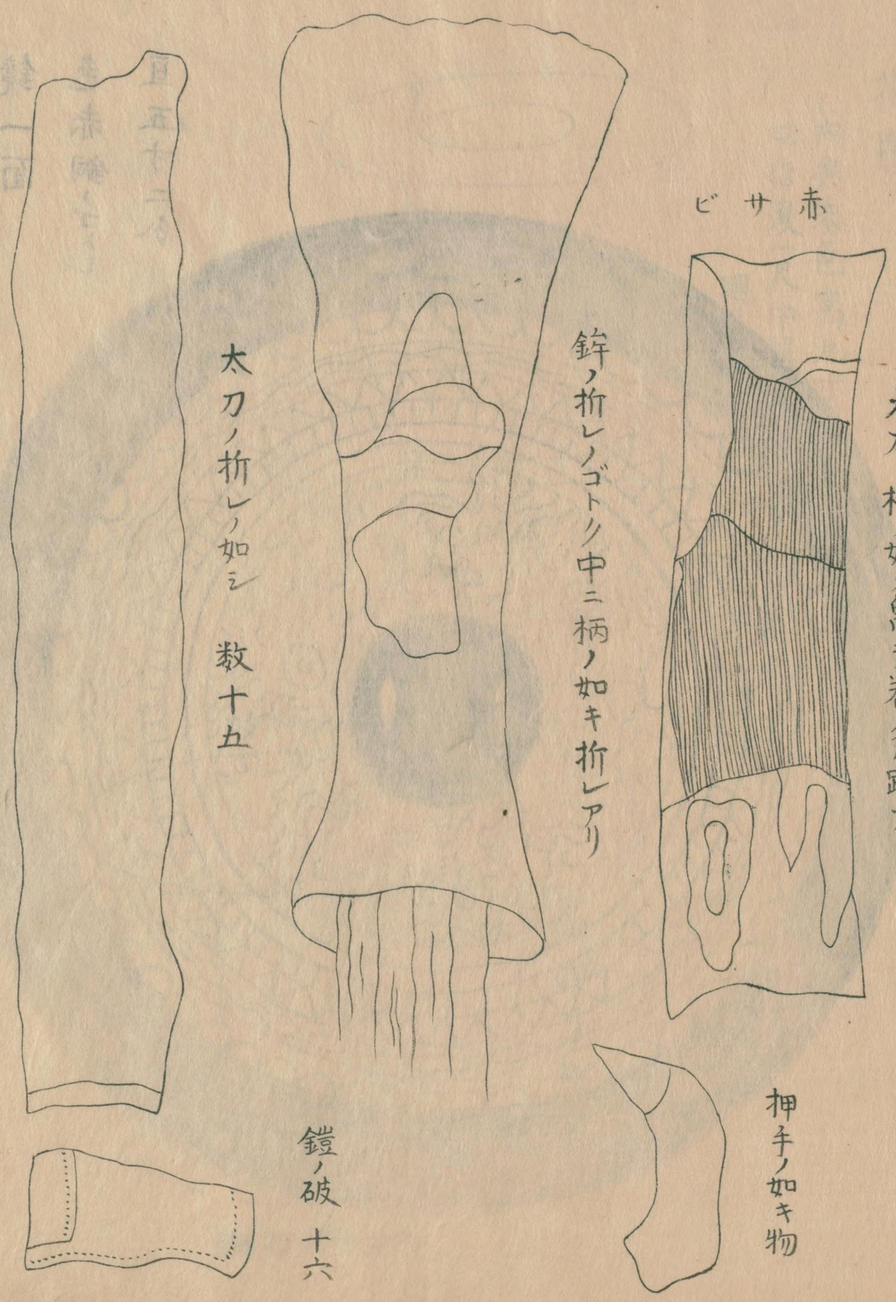
國造塋中ニ納ヘらるゝ銅鏡の図背面

○上下侍塚所出古器

同処國造碑より又町程北に車塚と云あり一に上侍塚とも称ふ高サ二丈許地形北より南に廿一間東より西に廿又間前の方に築出しとる土手十又間許あり又此処より南六町許に大塚あり是を下侍塚と云高三丈余地形北より南に三十間東より西に廿八間築出廿一間余此外右の塚に似たる小塚多し元録又壬申二月此塚を開発て古器多ク出せり依て是を一筐中に納先再び是を瘞て其終理を加へさせらる

上侍塚に出る古器左の如し

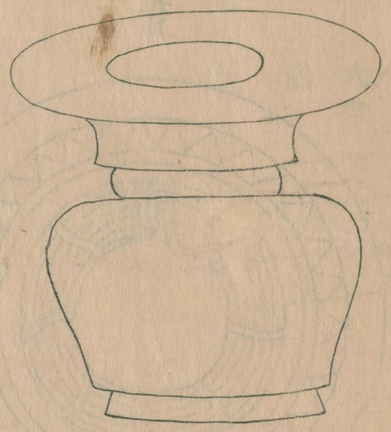


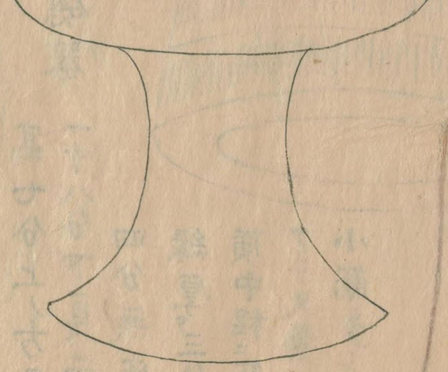

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82
ガラス使用

鏡一面
色赤銅ノゴトシ
直五寸二分

花瓶



内奥朱色高九寸
口指渡一尺中程ノビレ
廻り四寸五分



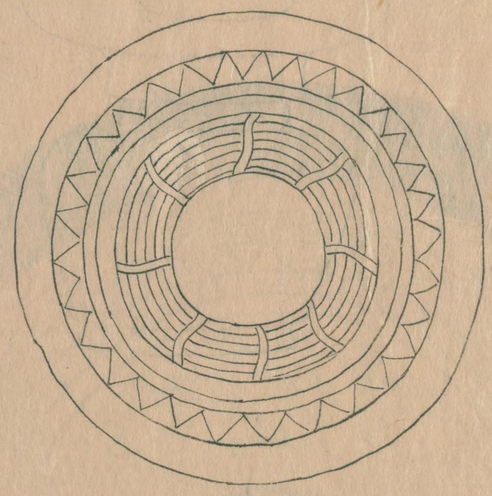
高四寸五分
口指渡三寸五分

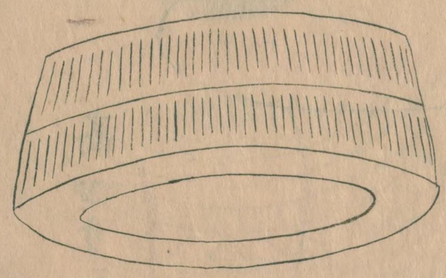
国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82
ガラス使用

下倚塚ゟ出る古器左の如し

赤銅色鏡一面　指渡二寸三分

背

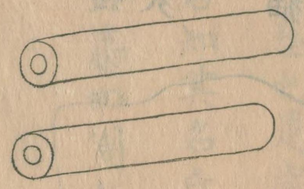




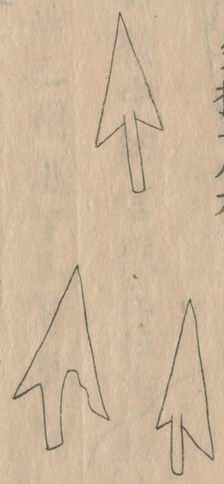
礎器　高七分上ノ方巾一寸八分下巾二寸
四分無底
縁厚サ三分
横中程ニ筋アリ又竪ニ小筋多シ

焼物管二ツ

大如図



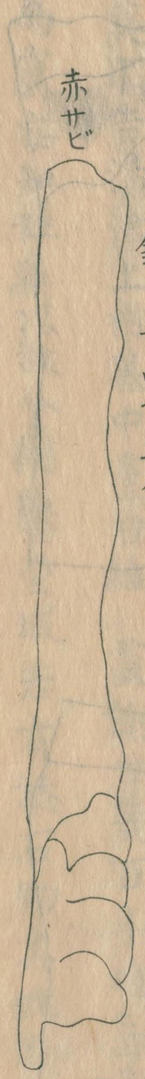
矢根十八本



大矢根一本　長一尺一寸五分　幅三寸

赤サビ

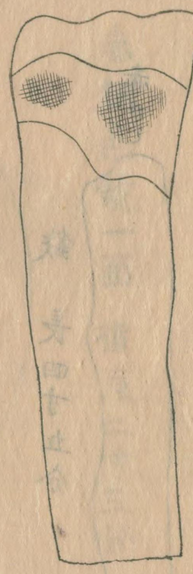
鉄　長四寸五分



国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82

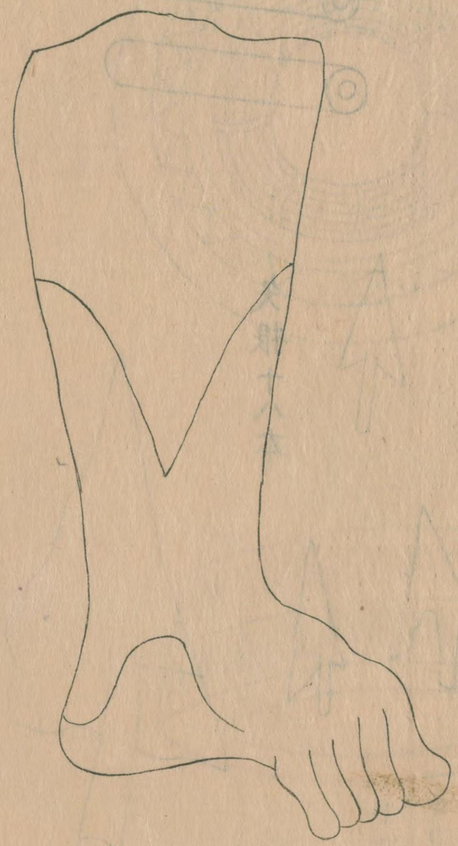
ガラス使用

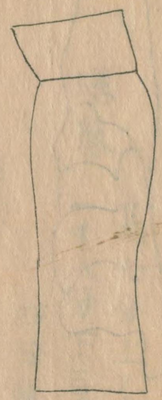
鎧板　竪二寸八分横八分



此外鎧ノ破片十二

鉾ノ如キ物
長五寸四分
廻リ四寸
中ニ穴アリ猫
ノ手ノ如シ





同小　片五

## 器物納箱銘

下野國那須郡湯津上村有大塚不知何人之墓也其爲倒度是侯伯連師之墓也是歳元録壬申之春命儒臣良峯宗淳啓奏堂域若有諸石知其名氏則欲建碑勒文而墓有銘誌焉於是痊藏仍舊新加封築四周栽松防其崩壞云

前權中納言従三位源朝臣光圀纖

元録五歳在壬申春二月辛巳朔越丁三月癸巳

前權中納言従三位源朝臣光圀命儒臣佐佐宗淳謹以清酌庶羞之冥莫昭告湯津上村墓中靈曰維　靈謝世幾百年墳墓荒廢狐兎爲窟安知姓名以故今開鑒堂域若有誌石勒其姓名則新建碑以傳不朽域無名而謹加封樹庶諸所藏應當仍旧伏願昭鑑

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82
ガラス使用

佐佐介三郎宗淳識

◎源満仲の伝印

摂津国河邊郡多田院に摂津守源仲公の印一箇を納む大図のごとし

◎赤松圓心の像

水戸中山某の家に赤松圓心の肖像一幅を藏し画ハ狩野直信の筆なり讃詞詳なりし

赤松圓心
受權良之命
与六波羅兵
相戰頻竭軍
勞有功

○公方吉書始案文

吉書始の文ハ水府の古簡襍纂ニ載ける処ハ近頃小山田與清其書を摸刻して同好の士ニ頒つ此ニ載ける処ハ彼襍纂の中より縮写せるものなり

下　武藏國

御三箇條

神事

一吾神之爲神以人之祭祀人之爲人以神之加被国茲守式日專如莊之禮奠限永代爲不朽之勤行焉

農桑事

一國者以民爲基弋以農爲天各励池溝堰堤之勉宜致稻穀紬絹之□矣

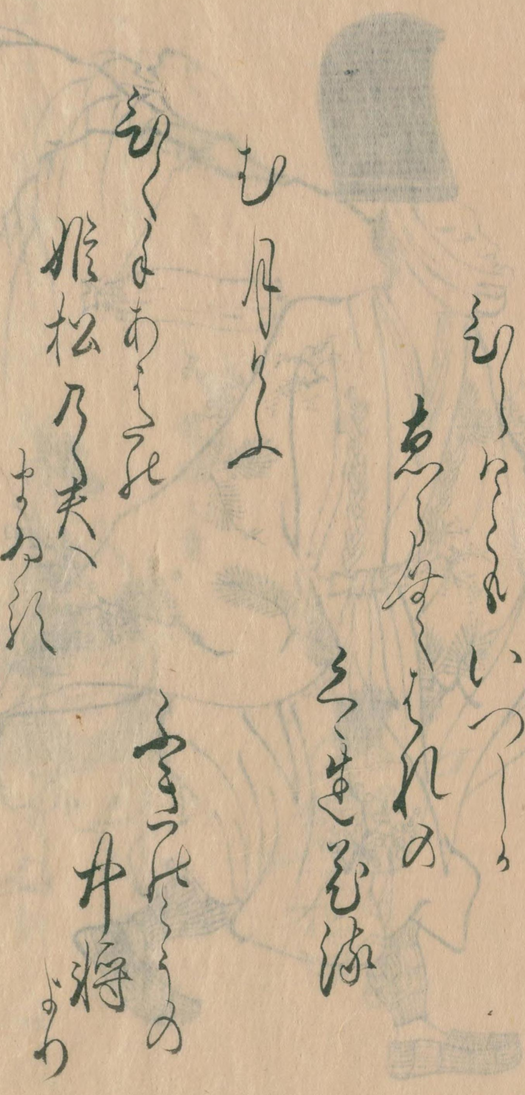
乃貢

一吾諸國之濟物任土之貢早守毎年之所當可致合期之進納焉

以前三箇條所御如件以下

文安三年正月二日

○縣想笈賣の古図并文



[illegible]

延寶天和の頃の印行にして紙ハ没紙やうのものを用ゐたり松梅の模様を青紅に摺たり小山田與清ゝ所藏の中より縮寫し

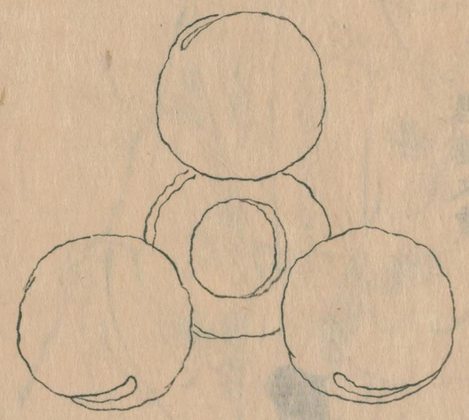
懸想文賣

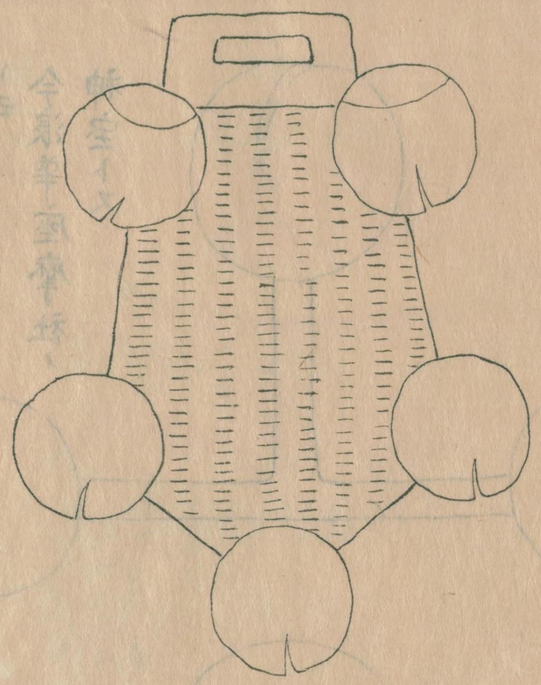
国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

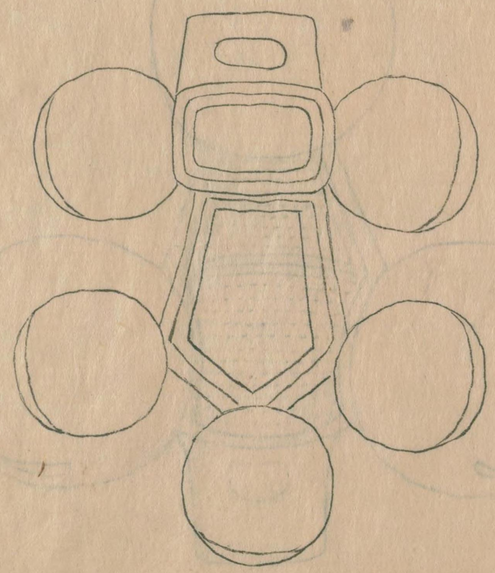
ガラス使用

○古鈴

和泉國大鳥部百濟村土中より掘出し古鈴の圖或書に載し
但し此邊は土師氏の祖野見宿弥の宅地にして東に反正天皇の
御陵西に履仲天皇の御陵在り又仁德帝の大仙陵も此処に
近ければ上代の物なるべしと云





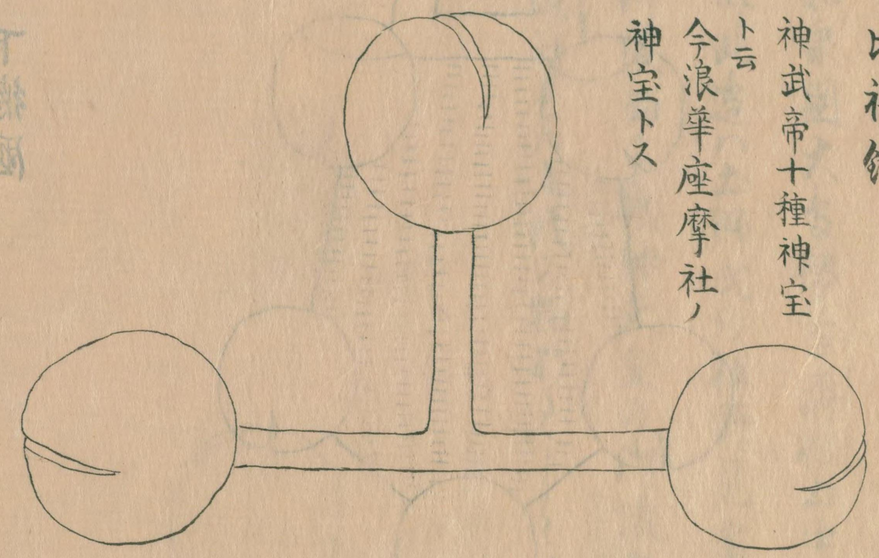


下總國葛飾郡行徳
善照寺所藏

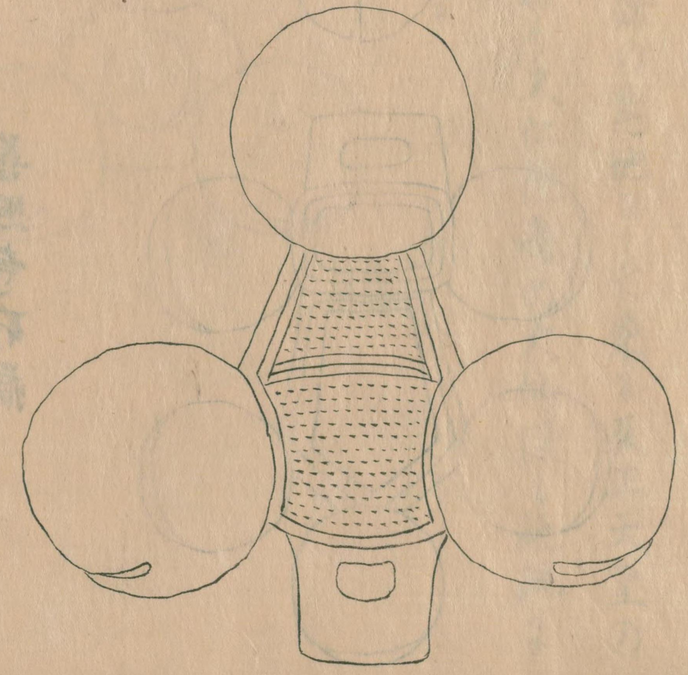
## 比禮鈴

神武帝十種神宝ト云

今浪華座摩社ノ神宝トス



五十鈴宮境内ヨリ掘出シ処々云



## ○尾上の鐘

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

ガラス使用

高三尺二寸
圍七尺七寸
厚一尺九寸
徑二尺五寸

疣三十六
花形四寸

佛像樂人樂器等ノ紋アリ

義家公出陣像

因州池田家ノ所藏筆者ノ年歷詳ナラス雖頗ル
當時ノ形容ヲ寫セルモノカ今騰寫シテ水戸彰考
館ニ有リ

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82
ガラス使用

国立国会図書館
タイトル『三省堂雑録』請求記号 859-82
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』請求記号 859-82

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』請求記号 859-82
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』請求記号 859-82
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82

ガラス使用

859
82

5640

国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』 請求記号 859-82

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『三省堂雑録』　請求記号 859-82